

よりそう

Side by Side



2011.9.1(木)
特別号
(通算第82号)

編集責任：三好

編集担当 若原 三好

鎮魂の花園，癒しの花園



左：阿部義雄氏，中：阿部由美子氏，右：若原三好氏
左から阿部義雄氏，中：阿部由美子氏，右：若原三好氏
左から阿部義雄氏，中：阿部由美子氏，右：若原三好氏

— 息子の供養にもなるかと思つて —

大槌町赤染地区：阿部義雄氏
阿部由美子氏

大槌町赤染地区の隣長・若原 三好氏が、
「三好氏、ぜひ、この花園と阿部さんの話を
聞いて、『よりそう』の記事にして、ボランティアの
方々に伝えたいのです。土曜 日曜(かこ

瓦礫の間から小さな芽が!!

3.11の大震災による津波は、私達二人の人生
を根底からくつがえしました。余生をかくまひ
の家は、新築1年間で流されてしまいました。
息子に嫁をとりて二世帯の住宅をこの敷
地に建て、いよいよくつそつと考えていまし
たが、おなわぬ夢となりました。人生と思
うようにならぬものですよねー。

ある日、瓦礫の間から小さな芽が
出たことに気がきました。「あっ!!」と思
い出したのは、



震災前に建てた家が瓦礫の間から花が

何か、さ... 心と心に火がともる感じでした。お、
ここに花園をつくらう!! と決心しました。
由美子氏「夫が協力してくれれば水はできませんよ。お、
瓦礫の撤去は係の仕事ですから、夫が本当
に力をこめて、協力してくれました。」

植物の生命力に驚かされた。

自力で、瓦礫を撤去していきました。芽を育てたいと
強く思いました。津波をかきさらした土に芽を出した木蓮
の生命力の強さに驚かされました。多分、暗闇が続き、
陰分なところから芽を出したのでしょう。育ったもの
が復元できるか、と思つていましたが、できたもの
は思いません。

由美子氏「夫が、花を植えるよ、と気持ちよく持たせて
くれた分かります。花以外の雑草は、はえて
きました。何を植えるかは、私が選んでい
ました。夫は、ダメだと思いましたが、それで花にしたいです。元々、
私達は、民営を経営し、船橋新聞
も運営してました。郵便局の5、6年
地球の別の国へ移りました。民営中
今はおめしています。(1960-61年頃がピー
クです。) 左側の瓦礫
も残っていたので、自衛隊が撤去
してくれました。でも、又余力が
乏しく、右側(雑草と瓦礫)の敷地にも
木蓮畑をつくりたいと思つています。

息子の供養にもなるか

この花園をつくらうのは、
この津波で亡くなった息子の供養に



津波で流された土に見事に咲きそめた花々、

息子がかと思つています。この花園は、今は流れて
きました。

津波後、赤染水が静養館に流れたので、水が
溢れて、9月に1177人で150人、水が溢
出しました。でも飲料不慮で、洗濯・風呂水に
かきました。

...そこに、おつての近所の女性が集りがあられ、
奥さんとご主人に会話を交わす。セーター、
女性は、かき出さず、パチパチと撮影
される.....

その会話は、おつての近所の女性が集りがあられ、
奥さんとご主人に会話を交わす。セーター、
女性は、かき出さず、パチパチと撮影
される.....

大槌町赤染地区は、二ヶ月前に災害が起きた場所。
おそく、障子高田も瓦石・路崎も同じ事情があるとい
ふボランティアのみなさん、ぜひ、お心で、現地の活
動にのぞいて下さい。

84/2 (金) ボランティアミーティングはPM15:30-18:00
9/1 (土) の宿泊: 184人、活動: 156人

9/2 (日) 天気: 曇り
9/3 (月) 天気: 晴
28℃ 言
22℃ 住
降
50%